

東大雪 W1 の結果概要 地区名：TH1 新得 2062 林班り小班 9月23日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		斜面	南西	1	2	2008-10年	5.5	累積 3.8	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	36 /200 m ²	42.3 m ² /ha	23 /200 m ²	食痕: 4/23	17%	15 /200 m ²	12/36	33%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	5 /200 m ²	3/5	60%		30	81.1%・84.6	42%	0.74・0.08(15.29)・0.01	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
シナノキ	4	3,004		
オヒョウ	2	2,455	2	1
サワシバ	7	1,496	4	1
アオダモ	4	672	2	4
キハダ	1	336		1
全体	36	8,450	23	12

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

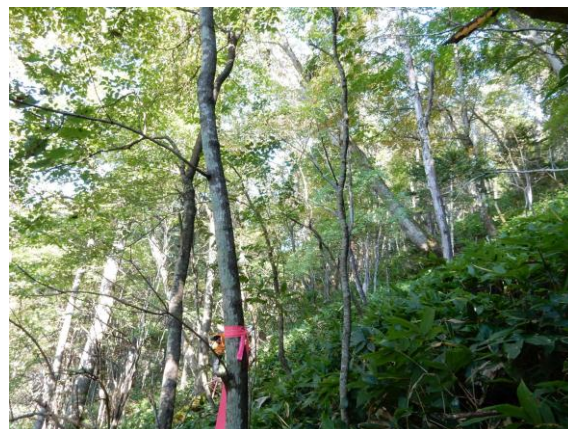
稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	4	
ハシドイ	4	3
キタコブシ	1	
全体	9	3

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	19	0.657	81	84.6	8
フッキソウ	15	0.014	7	23.8	0
ゴンゲンスゲ	4	0.001	2	19.8	0
ツルウメドキ	3	0.000	1	28.3	0
チョウセンゴモシ	3	0.000	1	19.7	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、新得北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 5.5 とやや高く、増加傾向にある。トドマツもわずかに混じるが、シナノキやオヒョウなどの広葉樹がほとんどである。林床は全般にクマイザサに覆われている。可食種のうち下枝がある立木は 23 本あり、このうち 17% に食痕が確認された。樹皮剥ぎはアオダモなど計 12 本に確認され、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 33% にのぼった。落葉樹の稚樹はハシドイなど 5 本が生育していたのみで、60% に食痕が見られた。稚樹の少なさはシカによる影響よりも、ササの被圧や母樹の少なさによるところが大きいと考えられた。林床のササの平均被度は 81% に達し、食痕率は 42% と高かった。その他にはフッキソウ、ゴンゲンスゲなどである。可食種の現存量指数は 0.01、忌避種は 0.08 と小さかった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、各指標とも高めとなっていて今後の影響の蓄積が予想される。

東大雪 W2 の結果概要

地区名：TH1 新得

1010 林班へ小班

9月22日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		斜面	北東	1	2	2008-10年	5.5	累積 3.8	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	39 /200 m ²	65.0 m ² /ha	20 /200 m ²	食痕: 6/20	30%	7 /200 m ²	11/37	30%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]			
	4 /200 m ²	3/4 75%				36	16.9%・57.3・25%	0.36・0.22 (8.45)・0.03	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
シナノキ	7	6,247	3	1
オヒョウ	11	3,047	8	8
ウダイカンバ	1	2,012		
シウリザクラ	13	1,251	5	
アオダモ	3	217	2	1
全体	39	13,002	20	11

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり(本)
エゾマツ	3	
シウリザクラ	3	2
シナノキ	1	1
全体	7	3

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	16	0.105	17	57.3	4
ジュウモンジシダ	18	0.126	29	47.3	0
フッキソウ	18	0.028	13	24.0	1
ムカゴイラクサ	16	0.010	4	29.4	2
アオダモ	9	0.000	1	4.1	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、新得北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 5.5 とやや高く、増加傾向にある。エゾマツもわずかに混じるが、シナノキやオヒョウなどの広葉樹がほとんどである。調査地近くの林縁部にはシカ道が見られる。林床は全般にクマイザサに覆われているが平均被度は低く、ジュウモンジシダやフッキソウなども多くなっている。可食種のうち下枝がある立木は 20 本あり、食痕率は 30%だった。樹皮剥ぎはオヒョウで多く見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 30%にのぼった。広葉樹の稚樹はシウリザクラなど 4 本が生育していたのみで、このうち 3 本で食痕が見られた。稚樹の少なさはシカによる影響よりも、ササの被圧や母樹の少なさによるところが大きいと考えられた。林床のクマイザサの平均被度は 17%に過ぎず、食痕率は 25%だった。可食種の現存量指数は 0.03 と小さく、忌避種は 0.22 だった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、各指標とも高めとなっていて今後の影響の蓄積が予想される。

東大雪 W3 の結果概要 地区名：TH1 新得 1023 林班は小班 9月22日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		尾根	南	1	2	2008-10年 4.8	累積 4.2	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	63 /200 m ²	60.0 m ² /ha	40 /200 m ² 食痕: 1/40 3%			40/200 m ²	9/54 17%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	33 /200 m ²	24/33 73%			26	48.0%・70.2・20%	0.45・0.08(7.99)・0.01	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
トドマツ	8	5,099	5	2
ベニイタヤ	1	1,922		
ヤマモミジ	2	1,554		
アズキナシ	2	1,035		
エゾマツ	1	535	1	
全体	63	12,006	40	11

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	25	16
トドマツ	22	
サワシバ	7	7
エゾマツ	1	
ミズナラ	1	1
全体	56	24

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.357	48	70.2	4
トドマツ	9	0.071	9	65.6	0
フッキソウ	16	0.012	6	21.9	0
サワシバ	9	0.006	2	43.6	3
シウリザクラ	4	0.001	2	35.5	1

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、新得北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 4.8 となっている。トドマツが優占し、ベニイタヤやヤマモミジなどの落葉広葉樹が混生する。調査地近くの林縁部にはシカ道が見られる。林床は全般にクマイザサに覆われている。可食種のうち下枝がある立木は 40 本と多いが、食痕率は 3% だった。一方で、樹皮剥ぎはアオダモで多く見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 17% にのぼった (トドマツでは角こすりが見られる)。広葉樹の稚樹はシウリザクラなど 33 本が生育し、このうち 24 本で食痕が見られた。林床のクマイザサの平均被度は 48% で、食痕率は 20% だった。可食種の現存量指数は 0.01 と小さく、忌避種は 0.08 だった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、下枝食痕率以外の各指標は高めとなっていて今後の影響の蓄積が予想される。

東大雪 W4 の結果概要 地区名：TH1 新得 1075 林班は小班 9月23日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		緩斜面	西	1	2	2008-10年 6.3	累積 4.1	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	81 /200 m ²	44.9 m ² /ha	48 /200 m ² 食痕:3/48 6%		40/200 m ²	1/76 1%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	15 /200 m ²	11/15 73%		27	45.8%・68.1・ 5%	0.36・0.02 (2.06)・0.01		

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ミズナラ	17	5,482	11	
イタヤカエデ	5	944	1	
ベニイタヤ	3	710	1	
ハウチワカエデ	24	596	17	
エゾヤマザクラ	4	359	2	
全体	81	8,988	48	1

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	12	
サワシバ	5	4
エゾマツ	3	
アオダモ	3	2
ハウチワカエデ	2	2
全体	30	11

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.332	46	68.1	1
ゴンゲンスゲ	19	0.012	7	17.3	0
エゾマツ	2	0.006	9	85.0	0
ミズナラ	7	0.004	1	39.3	2
オオカメノキ	13	0.002	1	24.2	11

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、新得北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 6.3 とやや高く、増加傾向にある。トドマツやエゾマツもわずかに混じるが、ミズナラやハウチワカエデなどの落葉広葉樹がほとんどである。調査地近くの林縁部にはシカ道が見られる。林床は全般にクマイザサに覆われている。可食種のうち下枝がある立木は 48 本あり、食痕率は 6%だった。広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 1%と低かった。広葉樹の稚樹はサワシバなど 15 本で、このうち 11 本で食痕が見られた。林床のクマイザサの平均被度は 46%で、食痕率は 5%だった。可食種の現存量指数は 0.01、忌避種は 0.02 といずれも小さかった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、稚樹の食痕率は高めとなっていて今後の影響の蓄積が予想される。

東大雪 C1 の結果概要 地区名：TH2十勝川 1313 林班ぬ小班 9月23日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		平坦		1	2	2008-10年	8.2	累積 4.4	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	65 /200 m ²	47.5 m ² /ha	32 /200 m ² 食痕: 5/32 16%			21 /200 m ²	6/63 10%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	2 /200 m ²	0/2			16	46.7%・59.6・25%		0.31・0.03(12.41)・0.00	

※数値の上段は2009年調査結果。稚樹は樹高30cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ミズナラ	4	1,977	2	
コシアブラ	6	1,581		
ベニイタヤ	2	1,575		
シナノキ	15	808	8	
アオダモ	12	758	8	6
全体	65	9,509	32	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	1	
ホオノキ	1	
ミズナラ	1	
全体	3	

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.287	47	59.6	5
フッキソウ	19	0.024	8	34.2	0
アオダモ	20	0.001	1	8.3	2
ゴンゲンスゲ	6	0.001	2	16.7	0
イワガラミ	5	0.001	3	13.4	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、十勝川上流域の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 8.2 と高く、急増している。トドマツやエゾマツもわずかに混じるが、ミズナラやコシアブラなどの落葉広葉樹がほとんどを占める。林床は全般にクマイザサに覆われている。可食種のうち下枝がある立木は 32 本あり、食痕率は 16% だった。樹皮剥ぎはアオダモで多く見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 10% だった。広葉樹の稚樹はわずかに 2 本だけで、食痕は見られなかった。林床のクマイザサの平均被度は 47% で、食痕率は 25% だった。可食種の現存量指数は 0.00、忌避種は 0.03 といずれも小さかった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、各指標は高めとなっていて今後の影響の蓄積が予想される。

東大雪 C2 の結果概要

地区名：TH2 十勝川 1081 林班い小班 9月23日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		緩斜面	北	1	2	2008-10年	8.2	累積 4.4	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)			
	57 /200 m ²	48.3 m ² /ha	33 /200 m ²	食痕: 4/33 12%	27 /200 m ²	16/55	29%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]			
	4 /200 m ²	1/4 25%		32	29.5%・49.1・35%	0.21・0.04 (8.37)・0.00			

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
シナノキ	6	4,076		
トドマツ	2	2,755		
ミズナラ	2	920	1	
アオダモ	16	542	14	14
サワシバ	11	520	10	
全体	57	9,651	33	16

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
エゾマツ	1	
トドマツ	32	
アオダモ	1	1
オニグルミ	2	
ヤマモミジ	1	
全体	37	1

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.166	30	49.1	7
トドマツ	10	0.025	8	50.7	0
ゴンゲンスゲ	19	0.009	6	14.4	0
フッキソウ	15	0.004	2	19.9	0
ナンブソウ	14	0.003	2	11.9	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、十勝川上流域の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 8.2 と高く、急増している。シナノキやミズナラなどの落葉広葉樹とトドマツが混じる。林床は全般にクマイザサに覆われているが、密生ではない。可食種のうち下枝がある立木は 33 本あり、食痕率は 12% だった。樹皮剥ぎはアオダモで多く見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 29%にのぼった。広葉樹の稚樹はわずかに 4 本だけで、食痕があったのは 1 本だった。林床のクマイザサの平均被度は 30%で、食痕率は 35%だった。可食種の現存量指数は 0.00 と小さく、忌避種は 0.04 だった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、各指標は高めとなっていて今後の影響の蓄積が予想される。

東大雪 C3 の結果概要

地区名：TH2十勝川

1258 林班に小班

9月24日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		平坦		1	2	2008-10年 7.3	累積 3.9	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	55 /200 m ²	53.4 m ² /ha	36/200 m ² 食痕: 6/36 8%			26/200 m ²	9/34 26%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	1/200 m ²	1/1 100%					22	67.8%・66.2・ 50%

※数値の上段は2009年調査結果。稚樹は樹高30cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
イタヤカエデ	2	2,778	1	
シナノキ	5	2,054	3	
ミズナラ	5	1,861	2	
トドマツ	20	1,667	13	10
アオダモ	9	776	6	9
全体	55	10,676	36	21

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	38	
ヤマモミジ	1	1
全体	39	1

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.473	68	66.2	10
トドマツ	10	0.069	13	91.8	0
オシダ	3	0.025	23	64.7	0
ゴンゲンスゲ	10	0.023	22	20.3	0
フッキソウ	18	0.018	7	25.8	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、十勝川上流域の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 7.3 と高く、急増している。調査地近くの林縁部にはシカ道が見られる。イタヤカエデやシナノキなどの落葉広葉樹とトドマツ、エゾマツが混じる。林床は全般にクマイザサに覆われているが、密生ではない。可食種のうち下枝がある立木は 36 本あり、食痕率は 8% だった。樹皮剥ぎはアオダモで多く見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 26% にのぼった (トドマツでは角こすりが見られる)。広葉樹の稚樹はわずかに 1 本だけで、食痕があった。林床のクマイザサの平均被度は 68% で、食痕率は 50% だった。可食種の現存量指数は 0.01 と小さく、忌避種は 0.15 だった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、各指標は高めとなっていて今後の影響の蓄積が予想される。

東大雪 C4 の結果概要

地区名：TH2 十勝川

1247 林班は小班

9 月 24 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面	南	1	2	2008-10 年 7.3	累積 3.9	シカ道・越冬地
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	49 /200 m ²	35.3 m ² /ha	38/200 m ² 食痕:2/38 5%			20/200 m ²	9/49 18%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0/200 m ²	0/0			44	33.5%・43.3・ 47%	0.25・0.08 (6.93)・0.01	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ハルニレ	2	2,006	1	2
ミズナラ	3	1,762		2
サワシバ	30	1,475	26	1
ベニイタヤ	1	843	1	
シナノキ	2	585		1
全体	49	7,053	38	12

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	7	
全体	7	

林床植生調査結果－主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	15	0.167	34	43.3	7
オシダ	12	0.027	10	34.2	0
クジャクシダ	7	0.024	15	40.1	0
トドマツ	3	0.017	8	96.0	0
フッキソウ	13	0.007	4	20.9	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、十勝川上流域の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 7.3 と高く、急増している。調査地内外にシカ道が多数見られ、周辺一帯が規模の大きな越冬地となっている。ハルニレやミズナラなどの落葉広葉樹に、わずかにトドマツ、エゾマツが混じる。林床は全般にクマイザサに覆われているが、密生ではなく、欠損部も多い。シカによる採餌圧によるものと思われる。可食種のうち下枝がある立木は 38 本あり、食痕率は 5%だった。樹皮剥ぎはハルニレなどで見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 18%だった。広葉樹の稚樹はなかった。林床のクマイザサの平均被度は 34%で、食痕率は 47%だった。可食種の現存量指数は 0.01 と小さく、忌避種は 0.08 だった。全体にエゾシカの影響が強く現れており、今後のさらなる影響の蓄積が予想される。

東大雪 ME1 の結果概要

地区名：TH3 鹿追 2111 林班ね 1 小班 9 月 24 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)	エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面	北東	1	2	2008-10 年 7.8	累積 5.8 なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	55 /200 m ²	29.4 m ² /ha	25/200 m ² 食痕: 1/25 4%		22/200 m ²	2/40 5%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	25/200 m ²	13/26 50%			30	43.0%・64.3・ 20%	0.45・0.14(4.99)・0.03

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
トドマツ	12	1,745	4	4
ホオノキ	4	1,108		
シナノキ	8	830	3	1
ウダイカンバ	1	512		
バッコヤナギ	2	427		1
全体	55	5,879	25	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	25	13
トドマツ	15	
エゾマツ	4	
ヤチダモ	1	
全体	45	13

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.280	43	64.3	4
トドマツ	9	0.079	15	89.8	0
フッキソウ	19	0.017	6	26.2	0
オシダ	7	0.016	9	42.7	1
シラネウラボ	10	0.014	5	27.9	2

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、鹿追北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 7.8 と高く、増加している。針葉樹のトドマツ、エゾマツと、ホオノキやシナノキなどの落葉広葉樹が混じる。林床は全般にクマイザサに覆われているが、密生ではない。可食種のうち下枝がある立木は 25 本あり、食痕率は 4% だった。樹皮剥ぎはシナノキなどで見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 5% だった (トドマツでは角こすりが見られる)。広葉樹の稚樹はシウリザクラなど 26 本で、食痕率は 50% だった。林床のクマイザサの平均被度は 43% で、食痕率は 20% だった。可食種の現存量指数は 0.03 と小さく、忌避種は 0.14 だった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、稚樹の食痕率は高めとなっていて今後の影響の蓄積が予想される。

東大雪 ME2 の結果概要

地区名：TH3 鹿追 2112 林班な小班 9月24日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	緩斜面	南西	1	2	2008-10年 7.8	累積 5.8	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	50 /200 m ²	31.3 m ² /ha	32/200 m ² 食痕:5/32 16%		25/200 m ²	6/50 12%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	5 /200 m ²	4/5 80%		22	36.3%・46.8・ 7%	0.55・0.28 (2.72)・0.10	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
カツラ	4	2,890	1	
ヤマモミジ	9	1,465	5	1
ハシドイ	16	666	13	4
ミズナラ	1	591		
イタヤカエデ	15	467	9	2
全体	50	6,252	32	8

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	1	
ミズナラ	1	1
シウリザクラ	1	1
アオダモ	1	1
サワシバ	1	1
全体	6	4

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
ミヤコザサ	20	0.532	70	75.5	3
フッキソウ	20	0.029	10	24.9	0
カサスゲ	7	0.027	14	46.1	0
イワガネゼンマイ	3	0.009	8	64.0	0
ミヤマベニシダ	3	0.005	9	31.7	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、鹿追北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 7.8 と高く、増加している。カツラやヤマモミジなどの落葉広葉樹と、わずかにトドマツが混じる。林床は全般にミヤコザサに覆われている。可食種のうち下枝がある立木は 32 本あり、食痕率は 16%だった。樹皮剥ぎはハシドイなどで見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 12%だった。広葉樹の稚樹はシウリザクラなど 5 本で、食痕率は 80%だった。林床のササの平均被度は 70%で、食痕率は 7%だった。可食種の現存量指数は 0.10、忌避種は 0.28 だった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、稚樹の食痕率は高めで、樹皮剥ぎ痕のある枯死木も多く、今後の影響の蓄積が予想される。

東大雪 ME3 の結果概要

地区名：TH3 鹿追

2179 林班な小班

9月24日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		緩斜面	南西	1	2	2008-10年	7.8	累積 5.8	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	59 /200 m ²	59.6 m ² /ha	24/200 m ² 食痕:6/24 25%			16/200 m ²	6/53 11%(2%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	4/200 m ²	2/4 50%			6	85.8%・86.7・15%		0.76・0.02(60.68)・0.00	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
シナノキ	18	5,835	7	1
イタヤカエデ	17	1,538	7	
ウダイカンバ	2	1,152		
トドマツ	4	944	3	4
ハリギリ	2	810		
全体	59	11,921	24	10

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	10	
シウリザクラ	3	1
ヤマモミジ	1	1
全体	14	2

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.745	86	86.7	3
フッキソウ	19	0.016	6	26.4	0
エンレイソウsp.	1	0.000	1	30.0	0
ヒロハツリバナ	1	0.000	1	13.0	0
シウリザクラ	1	0.000	0	48.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、鹿追北部の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 7.8 と高く、増加している。シナノキやイタヤカエデなどの落葉広葉樹と、針葉樹のトドマツが混じる。林床は全般にクマイザサに覆われている。可食種のうち下枝がある立木は 24 本あり、食痕率は 25% だった。樹皮剥ぎはシナノキなどで見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 11% だった (トドマツでは角こすりが見られる)。広葉樹の稚樹はシウリザクラなど 4 本で、食痕率は 50% だった。林床のクマイザサの平均被度は 86% で、食痕率は 15% だった。可食種、忌避種の現存量指数は 0.00、0.02 と小さかった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、今後の影響の蓄積が予想される。

東大雪 E1 の結果概要 地区名：TH4 上士幌 66 林班へ 2 小班 9 月 25 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	平坦		1	2	2008-10 年 3.8	累積 3.2	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	66 /200 m ²	40.5 m ² /ha	24/200 m ² 食痕: 1/24 25%		4/200 m ²	5/57 9%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0/200 m ²	0/0		6	87.5%・74.2・15%	0.65・0.00(13.43)・0.00	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

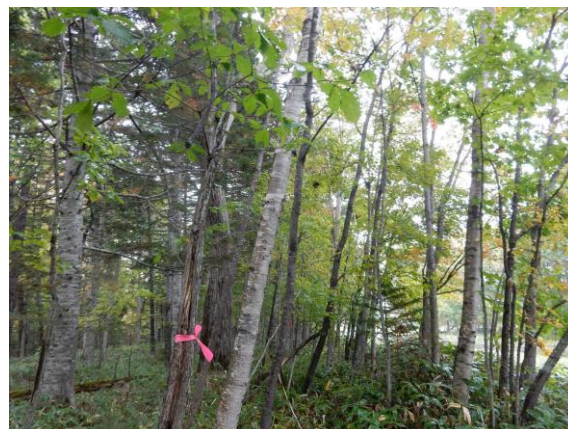
毎木調査—主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ミズナラ	14	2,832	5	2
トドマツ	4	2,816		2
ウダイカンバ	3	701		
イタヤカエデ	27	484	14	1
ダケカンバ	1	373		
全体	66	8,106	24	9

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり(本)
トドマツ	12	
全体	12	



林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.650	88	74.2	3
フッキソウ	3	0.000	1	11.7	0
ツルウメモドキ	1	0.000	0	4.0	0
イタヤカエデ	1	0.000	0	7.0	0
マイヅルソウ	1	0.000	0	6.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、上士幌北部（幌加）の国道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 3.8 となっている。ミズナラやイタヤカエデなどの落葉広葉樹と、針葉樹のトドマツ、エゾマツが混じる。林床は全般にクマイザサに覆われている。可食種のうち下枝がある立木は 24 本あり、食痕率は 25% だった。樹皮剥ぎはミズナラなどで見られ、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 9% だった（トドマツでは角こすりが見られる）。広葉樹の稚樹は確認されなかった。林床のクマイザサの平均被度は 88% で、食痕率は 15% だった。可食種、忌避種の現存量指数はともに 0.00 と小さかった。全体にエゾシカの影響は今のところ軽微にとどまっている。

東大雪 E2 の結果概要 地区名：TH4 上土幌 37 林班は小班 9 月 25 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		急斜面	北西	1	2	2008-10 年 8.4	累積 4.3	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)		
	37 / 200 m ²	36.3 m ² /ha	27 / 200 m ² 食痕: 4 / 27 15%		19 / 200 m ²	7 / 29 24%(2%)		
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	2 / 200 m ²	2 / 2 100%			21	75.8%・40.1・15%	0.47・0.16(22.19)・0.01	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種 / 可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数 (本)	総 BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ミズナラ	2	3,857	1	
ケヤマハンノキ	3	1,629	3	1
トドマツ	7	765	4	1
アオダモ	8	392	5	9
ヤマモミジ	1	257		
全体	37	7,255	27	11

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
トドマツ	48	
オヒョウ	1	1
シナノキ	1	1
全体	50	2

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
ミヤコザサ	20	0.303	76	40.1	3
トドマツ	14	0.141	18	81.9	0
エゾマツ	1	0.009	20	88.0	0
オンダ	3	0.006	10	42.7	0
フッキソウ	13	0.006	3	22.8	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、上土幌中部の車道（糠平湖ダム付近の旧国道）沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 8.4 と高く、急増している。ミズナラやケヤマハンノキなどの落葉広葉樹と、針葉樹のトドマツが混じる。林床は全般にミヤコザサに覆われている。可食種のうち下枝がある立木は 27 本あり、食痕率は 15% だった。樹皮剥ぎはアオダモで多く、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 24% だった（トドマツでは角こすりが見られる）。広葉樹の稚樹はわずか 2 本で、食痕率は 100% だった。林床のミヤコザサの平均被度は 76% で、食痕率は 15% だった。可食種の現存量指数は 0.01 と小さく、忌避種は 0.16 だった。全体にエゾシカの影響はまだ深刻にはなっていないが、今後の影響の蓄積が予想される。

東大雪 E3 の結果概要 地区名：TH4 上士幌 29 林班た小班 9 月 25 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		平坦		1	2	2008-10 年 2.7	累積 3.6	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	90 /200 m ²	96.7 m ² /ha	53 /200 m ² 食痕:2 /53 4%		64 /200 m ²	3 /85 4%(2%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	14 /200 m ²	3 /14 22%				17	0.87・0.17(1.41)・0.12	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
トドマツ	5	7,496		
ヤチダモ	2	3,426		
ハルニレ	2	2,856		
イタヤカエデ	4	2,586		
ケヤマハンノキ	3	1,751	2	
全体	90	19,341	53	3

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり(本)
アオダモ	7	1
トドマツ	5	
ナナカマド	2	
ハシドイ	2	
オヒョウ	1	1
全体	19	3

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
ミヤコザサ	20	0.588	78	72.2	0
オシダ	16	0.143	25	61.0	0
エゾニワトコ	2	0.045	25	180.0	0
ハシドイ	2	0.042	25	170.0	0
ノリウツギ	3	0.018	9	122.7	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、上士幌南部（清水谷）の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 2.7 となっている。針葉樹のトドマツと、ヤチダモやハルニレなどの落葉広葉樹が混じる。林床は全般にミヤコザサに覆われている。可食種のうち下枝がある立木は 53 本あり、食痕率は 4% だった。樹皮剥ぎはアオダモなど 3 本で、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 4% だった。広葉樹の稚樹は 14 本で、食痕率は 22% だった。林床のミヤコザサの平均被度は 78% で、食痕率は 0% だった。可食種の現存量指数は 0.12、忌避種は 0.17 だった。全体にエゾシカの影響は今のところ軽微となっている。

東大雪 E4 の結果概要

地区名：TH4 上土幌

29 林班ね小班

9 月 25 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		平坦		1	2	2008-10 年 4.8	累積 4.9	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	37 / 200 m ²	40.0 m ² /ha	27 / 200 m ² 食痕: 4 / 27 15%			17 / 200 m ²	2 / 31 6%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	13 / 200 m ²	1 / 13 8%			17	36.3%・46.8・ 7%	0.55・0.28 (2.72)・0.10	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種 / 可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
トドマツ	6	4,140		
ヤチダモ	3	2,599		
シナノキ	4	463	3	1
オオバボダイジュ	1	266	1	
キハダ	1	180		
全体	37	8,005	27	3

※総BAは胸高直径断面積の総和。

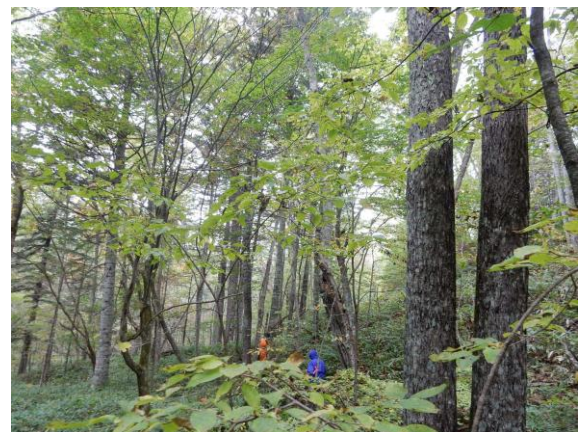
稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり(本)
ハシドイ	5	
キタコブシ	2	1
アオダモ	2	1
オヒョウ	1	1
シウリザクラ	1	
全体	13	5

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
オシダ	15	0.230	39	70.3	0
ミヤコザサ	15	0.160	36	46.8	1
ハシドイ	4	0.085	33	133.8	0
フッキソウ	19	0.043	16	28.3	0
カサスゲ	17	0.011	5	26.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、上土幌南部 (清水谷) の林道沿いの針広混交林二次林に設定している。周辺の SPUE は 4.8 となっている。針葉樹のトドマツと、ヤチダモやシナノキなどの落葉広葉樹が混じる。林床はオシダまたはミヤコザサが優占する。可食種のうち下枝がある立木は 27 本あり、食痕率は 15% だった。樹皮剥ぎ (生存木) はシナノキなど 2 本で、広葉樹全体の樹皮剥ぎ率は 6% だった。広葉樹の稚樹は 13 本で、食痕率は 8% だった。林床のミヤコザサの平均被度は 36% で、食痕率は 7% だった。可食種の現存量指数は 0.10、忌避種は 0.28 だった。全体にエゾシカの影響は今のところそれほど顕著にはなっていない。